

まちかど ネットワーク

お便りください

このコーナーは、皆さんの地域の話題を中心にお届けします。

お便りや出来事を広報広聴課☎51-0123内線2822へお寄せください。

市長への 手紙から

スプレートの空き缶に 穴をあけて大丈夫？

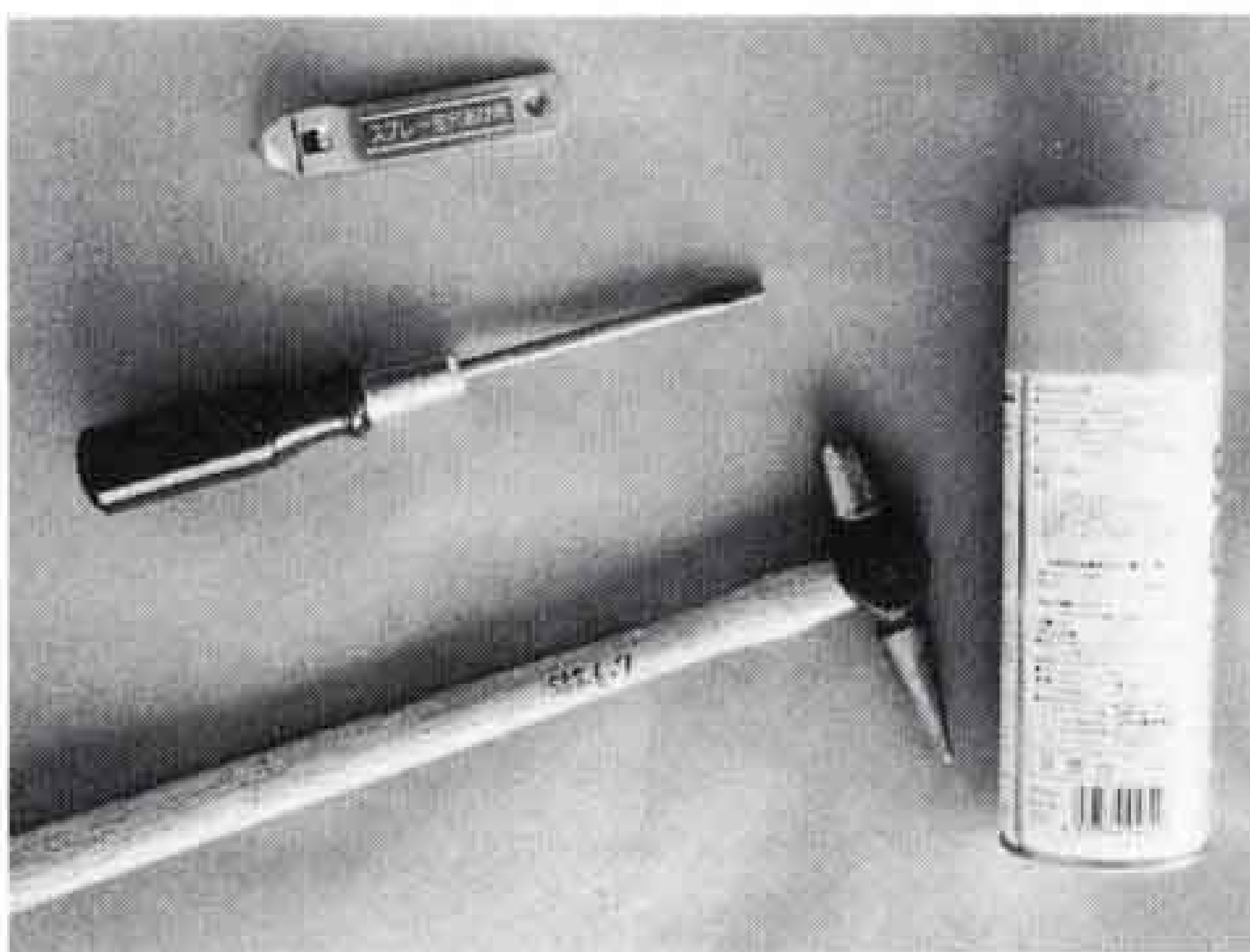
このコーナーでは「市長への手紙」の中から、提言などを紹介します。今回はKさん(原田)の「スプレー缶の正しい処理方法」についてです。

〈市長への手紙〉

先日、広報でスプレー缶をごみとして出すときは、家庭で穴をあけてという放送がありました。家庭であけて事故はないのでしょうか。

うちには小さな子どもがいるので、穴をあけると爆発するのではないかと不安になります。かといって、そのまま出すのも悪いと、いつも困ってしまいます。

安全な穴のあけ方や出し方をちらしなどで配り、市民に紹介してください。



△穴あけはハンマーやドライバー、市販の穴あけ道具で

必ず穴をあけて

〈市長の答え〉

殺虫剤や化粧品などに幅広く使われているスプレー缶は、中身がなくなつたと思つてもガスが残っています。ごみとして出すときは必ず穴をあけ、ガスを抜いて、燃えないごみの資源ごみ(カン類)の日に出してください。使用後のスプレー缶に穴をあけても危険はありません。ただ、穴をあけるときは火のそばは避けてください。また、ごみ収集車の車両火災がことしに入ってから五件も発生しています。これは、スプレー缶をそのまま燃えるごみとして出し、収集車の中で破裂したものです。ましてや、清掃工場の炉内で破裂すると大きな事故につながるおそれがあります。ぜひ御協力をお願いします。

なお、ごみの出し方等を示した冊子は、環境衛生課にあります。



△ごみの出し方をお知らせする冊子もあります

わいわい広場

女みこしを担ぐ



古橋美枝さん

ワッショイ！ワッショイ！

夏祭りには欠かせないおみこし。石坂の古橋美枝さん(二十四歳)は「おみこしを見ると血が騒ぐ」というおみこし大好きウーマン。富士まつりでは三年続けて女みこしを担ぎました。

「富士まつりは市民参加型のお祭りなので、実際に参加することに意義があると思います。それにしても、おみこしの熱気と一体感は最高」と古橋さん。男に生まれたかたつた？

交通事故をゼロに



石川聖子さん(左)と藤田裕美子さん

大淵地区社会教育推進会の安全教育部は、地元の子どもたちの手による交通安全標語を決めました。最優秀作品は、大淵中二年石川聖子さんの「交差点は必ずお話も 一日停止」と、大淵第一小五年藤田裕美子さんの「あぶないよ 道に広がる子どもたち」の一点。交通安全運動の期間中、通学路に張り出され、事故のないまちづくりに活用されます。

家族でミニバスケット



△右から沙織さん、英夫さん、葉子さん、暁子さん、邦さん

傘木の田辺英夫さん一家は、ミニバスケット愛好家族。お父さんの英夫さんは、丘小フロッギーミニバスクラブの役員。長女の沙織さん(丘小六年)、次女の葉子さん(同四年)、三女の暁子さん(同一年)が選手で、お母さんの邦さんは地域のママさんバスケットの一員です。練習は週三回で、日曜日は大体会試合。忙しいですが、親子の会話は十分な家族です。